

## 森林環境保全基金運営委員による令和3年度森林環境税活用事業評価(令和4年8月10日 〆切)の集計及び総合評価(案)

事業No.		公益林保全整備事業(木材増産推進課)	R3事業費	18,919 千円
R3-1	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	6	【現状のまま継続】とした意見 ○未整備森林が多数あるため補助金を活用しながら事業を行っている場合、経営計画作成団地以外での施業を行う時に活用しやすいメニューであるため、継続が望ましい。	
	● 事業を拡大	1	○他の単価が高い補助金で実績がでていとの話だったため、その補助金が無くなっても整備する面積が落ちないように本補助金の活用を促していただきたい。	
	● 事業を縮小	1	○各市町村の森林環境譲与税の活用状況を見て、棲み分けできるように検討してほしい。	
	● 休廃止を検討	1	【事業を縮小】とした意見 ○実績報告より、「森林所有者の事情等で実施を見送る事業地が多く発生した」とあり、当事業は他の事業との関係において優先して実施されるものではないことがわかる。これは、当事業が事業者・森林所有者にとって重要度の低いもの、即ち効用が薄いものと認識されているということである。実績報告では「補助単価」が他の事業より低かったことが理由とされているが、補助率を上げればいいのかというと、それは根本解決にはならないと考える。補助率の高い事業を追う現状そのものを変えるための仕組みを、県単事業だからこそ構築すべきではないか。具体的には、定率補助ではなく定額補助により、事業者・森林所有者の改善努力を損なわない支援の仕組みの構築などである。担い手問題が深刻化する中、森林整備・増産よりも、事業者の育成に重きを置くべきではないかと思われる。(R3-2も同様)	
● 改善のうえ継続	1			
事業No.		みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)	R3事業費	10,188 千円
R3-2	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	6	【現状のまま継続】とした意見 ○R3の評価シートからは増額の根拠が見当たらない。	
	○ 事業を拡大	0	○他の単価が高い補助金で実績がでていとの話だったため、その補助金が無くなっても整備する面積が落ちないように本補助金の活用を促していただきたい。	
	● 事業を縮小	1	【事業を縮小】とした意見 ○各市町村の森林環境譲与税の活用状況を見て、棲み分けできるように検討してほしい。	
	● 休廃止を検討	1	【休廃止を検討/改善のうえ継続】とした意見 ○「自助努力による森林整備が困難な森林」(条件不利森林)の「荒廃森林への移行を防止」する目的で当事業により国庫補助への上乗せを行っているが、このことにより、森林・森林管理の流動性を妨げてはいないだろうか。我が国の森林管理の課題の多くは、管理規模の小ささにあるとされている。森林経営管理制度が推進される中で、市町村への森林管理委託が進められることは、市町村行政への大きな負担という懸念はあるものの、森林管理において一大転機とも言える状況を迎えている。その中で、市町村の森林管理委託への影響を意識して事業を再構築する必要があるように思う。	
● 改善のうえ継続	2			
事業No.		造林事業[環境林整備事業](木材増産推進課)	R3事業費	25,218 千円
R3-3	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	5	【現状のまま継続】とした意見 ○公益林保全整備事業と同じく、まだまだ手入れの行届いてない人工林が多く健全な森づくりをしていくうえで必要。	
	● 事業を拡大	2	【事業を縮小】とした意見 ○各市町村の森林環境譲与税の活用状況を見て、棲み分けできるように検討してほしい。	
	● 事業を縮小	1	【休廃止を検討/改善のうえ継続】とした意見 ○当事業は「自助努力によっては適正な整備が期待できない条件不利地等」における「森林の多面的機能を発揮させる森林整備を行う」ことを目的としているが、当事業で保育間伐を進めることで「条件不利地」の「不利」を変えることはできない。「不利」を変えられないのであれば、今後も補助を続けざるを得ないが、それは木材生産を目的と定めてのものである。「多面的機能の発揮」を目的とするのであれば、木材生産に拘るべきではないのではないか。更新・非生産林移行などを検討しうる事業への再構成が求められていると考える。	
	● 休廃止を検討	1		
● 改善のうえ継続	1			

事業No.		森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費補助金(林業環境政策課)	R3事業費	6,267千円
R3-4	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	7	【現状のまま継続/事業を拡大】とした意見 ○当事業は、国庫事業への地方負担分の支給であるが、県内で森林に向き合う団体を多数形成させている。他の事業の担い手である県内でのボランティア活動団体などの高齢化や活動低迷により他事業の実績が伸び悩む中、この事業の重要性は非常に高いといえる。これからの森林に関わる新規団体を育成するためにも、現況把握や要望調査などが今後の施策立案において重要になると考える。	
	● 事業を拡大	3	【事業を拡大】とした意見 ○住民参加の動きをさらに誘発する意味で増額を検討してもよいと思う。また、コロナによる行動制限も緩和される可能性が高い。	
	○ 事業を縮小	0	○	
	○ 休廃止を検討	0	①里山保全に関する理論的啓蒙 対象となる地域住民、森林所有者、自伐林家等が、ある程度、根拠のある考えを持たないと、具体的保全の方向性が見いだせないため ②具体的保全の方向性を探る個別対応窓口 考え方が分かっても、何をどうすればよいかわからない人がほとんどのため	
	○ 改善のうえ継続	0	③具体的技術支援 各々が自分の問題として捉えるためには、実践がもっとも有効と考える。やりがいが、充実感、楽しさは大きなモチベーションとなる。それを支える技術支援。 ①と②は、ドッキングがよいと考えられるが、以上の3点を考慮した支援によって、参加間口が広がると考える。	
事業No.		指定管理鳥獣捕獲等事業委託料(鳥獣対策課)	R3事業費	5,691千円
R3-5-1	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	8	【現状のまま継続】とした意見 ○シカ捕獲は成果が目標に及ばないことが少なくないので、計画どおりの実施を目指してほしいところ。 ○通常の捕獲活動で手が届きにくい鳥獣保護区における捕獲事業であり、捕獲対象鳥獣へのプレッシャーを強める上で重要な事業である。捕獲効率に課題があるが、実施者の努力に任せるのではなく、行政側の改善努力(捕獲開始日の早期化など)を行っていることは評価できる。次年度も行政側の工夫を重ねる覚悟があり素晴らしい。	
	● 事業を拡大	1	○単に駆除するだけでなく、捕獲したシカの肉等の有効活用まで検討し、モデルとなるような事業にしてほしい。またシカ関連全体の事業のネーミングとして「シカ被害対策」という林業目線の表現ではなく、「野生動物との共存」などとした方が、より広く県民や環境団体等の理解や共感を得られるのではないかと。	
	○ 事業を縮小	0		
	○ 休廃止を検討	0		
	○ 改善のうえ継続	0		
事業No.		シカ個体数調査委託料(鳥獣対策課)	R3事業費	2,100千円
R3-5-2	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	5	【改善のうえ継続】とした意見 ○野生鳥獣の頭数管理において、個体数調査が重要であるならば、シカに限定して実施するだけでは足りないのではないだろうか。また、コストパフォーマンスの向上も課題であり、シカに限らず、年々被害を拡大させている野ウサギなど、他の鳥獣に関しても並行した踏査・統計解析ができないかどうかを検討することは必要と考える。	
	○ 事業を拡大	0	森林内に分け入り、野生鳥獣の痕跡に向き合う狩猟者の協力を得る方法も検討すべきではないか。携帯端末を利用した、捕獲ポイント登録、糞粒確認ポイント登録、希少生物確認ポイント登録、行政連絡の受信が可能なアプリの整備など、長期的視野での経費削減が必要と考える。	
	○ 事業を縮小	0		
	● 休廃止を検討	1		
	● 改善のうえ継続	1		

事業No.		森林環境保全対策シカ捕獲事業委託料(鳥獣対策課)	R3事業費	13,406 千円
R3-5-3	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	6	【現状のまま継続】とした意見 ○シカ捕獲は成果が目標に及ばないことが少なくないので、計画どおりの実施を目指してほしいところ。 ○期待する結果に繋がっていくよう、市町村の課題やノウハウを共有し、活動促進に繋げていただきたい。	
	● 事業を拡大	1	【事業を拡大】とした意見 ○安芸地区でのシカ被害は甚大であり、今後とも継続して狩猟を行う必要があり狩猟者の意欲向上のためにも報奨金単価の引き上げを検討してはどうか。	
	● 事業を縮小	1	【改善のうえ継続】とした意見 ○シカの生息数は高い自然増加率を示す頭数まで増加しており、放置することのできない状況にある。解決策は、一刻も早い頭数削減であり、将来の経費を抑えるためにも、自然増加率が抑制される範囲の頭数に達するまでは、手を抜くことはできない。生息頭数の多い地域への集中投資は、その意味から妥当であり、支援の平準化への配慮より優先させるものである。しかし、特別であるからこそ、実績確保は一層重要であり、目標達成のための狩猟者・市町村の理解をしっかりとることが必要ではないか。また、Withコロナ対策はもはや不可欠であり、令和3年度での対応不足は見通しの甘さを感じる。	
	○ 休廃止を検討	0		
● 改善のうえ継続	1			
事業No.		希少野生植物食害対策事業(自然共生課)	R3事業費	16,864 千円
R3-6	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	2	○取り組み内容や成果が県民の目に触れるようにしてほしい。今後注目が高まるであろう、牧野植物園などで展示を行う等工夫して、希少野生植物が本県で生育していることを県民が誇りに思え、子どもたちが自然環境に関心を持てるような機会提供と合わせて実施してほしい。	
	● 事業を拡大	1	【現状のまま継続/改善のうえ継続】とした意見 ○希少な野生植物の保護は重要な取り組みであるが、野生鳥獣の食害圧の抑制が厳しい中では、保護だけではなく積極的な喪失回避策も検討しておく必要があると考える。種子等の保存に関しては、牧野植物園との連携がなされているとのことであるが、保護地域の自然環境条件の確認・分析も併せて行い、喪失しないよう地元住民や地元小学校などと連携して種苗生産・栽培拡大などの対応を検討してはどうか。希少種を増産し、希少種枠から除外する対策も重要かと考える。	
	○ 事業を縮小	0	【事業を拡大】とした意見 ○防護柵(保護ネット)設置等で希少植物保護に大きく貢献している事業だと思う。短期的にはモニタリングの実施で植物個体群や防護柵の破損状況を把握して適切な処置を行っていることと推測するが、永久的な施設ではないため、鳥獣対策課等との連携を密にして防護柵設置地域のシカの生息数の減に努めるよう事業の拡大継続が必要だと思う。	
	○ 休廃止を検討	0		
● 改善のうえ継続	1			
事業No.		環境学習推進事業(生涯学習課)	R3事業費	2,062 千円
R3-7	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	5	○「森林活用指導者育成事業」について、人材の育成だけでなく、実際に学校林等を活用した活動を行うフィールドの設定をしなければ、その後の具体的な成果につながらないと思われる。現状の授業等で手一杯な教育現場が自発的に森林活用に取り組むのは難しいのではないかと。モデルケースとしてどこかの学校を重点的に支援し、実際に森林整備やプログラムづくり、支援する団体づくりまで取り組んでいくのはどうか。	
	● 事業を拡大	2	【事業を拡大】とした意見 ○コロナによる行動制限が緩和される可能性を踏まえて、予算の増額も検討してよいのではないかと。	
	● 事業を縮小	1	○質の高い指導者が、質の高い体験を企画運営できる。現状の人材育成のメニューだけで、質の高い指導者とするのは無理がある。「指導者」として、現場に入る人の質の向上を図る仕組みが必要である。 <質の高さの観点> ・フィールドの特質にそって活動を、企画できる(環境理解) ・活動に対するねらいを言語化できる ・静と動を含む、活動のバランスを考慮することができる ・対象人数、年齢、関係性によって、柔軟に活動を展開できる(柔軟な指導計画の作成と実践力) ・個別対応力(個別対象理解、発達理解、特別支援理解) ・反省点を自己分析できる	
	○ 休廃止を検討	0		
● 改善のうえ継続	1	【現状のまま継続/改善のうえ継続】とした意見 ○当事業は、森林における自然体験活動や環境学習を推進するために、森林活用指導者の養成を行うとともに、自然体験型学習の実施支援を進めている。指導者の養成は、主たる環境学習の場となる小中学校等において教職員の負担軽減としても機能するため、重要な事業である。懸念することとしては、「体験する」に偏っていないかどうかという点である。自らの体験が、どのような目的に繋がっているか、すなわち「利用・活用する」までを意識し、一過性の体験ではなく「生きる上での知恵」の習得となることを期待する。特に、森林資源の活用知識は、被災時の生き抜く力に直結するものであり、県民への学習機会として当事業が支援する学びへの期待は大きい。		

事業No.		高校生森林環境理解事業(高等学校課)	R3事業費	933 千円
R3-8	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続 5	○取り組む学校がいつも同じで限られているので、県東部など他の高校へも広げてほしい。		
	● 事業を拡大 3	【現状のまま継続】とした意見 ○コロナ対策の関係で一部中止などがあったとのことであるが、コロナ対策による活動制限の中でも工夫して取り組まれていることは素晴らしい。これまでと同様の活動は難しい状況にあるが、だからこそ、改めて森林環境理解の取り組みのあり方を見直す時期にもなれる。「活動継続」だけではなく「活動更新」を定着する良い機会ではないか。		
	○ 事業を縮小 0	○事業分野が水質検査から始まり間伐、環境保全まで裾野が広くなりすぎるため、分野、内容を絞ってはどうか。		
	○ 休廃止を検討 0	【事業を拡大】とした意見 ○コロナによる行動制限が緩和される可能性を踏まえて、予算の増額も検討してよいのではないかと。 ○思考も感性も柔軟なうちに、さまざまな体験が望まれる。特に、今の学生は身体を使っておらず、虫などの生き物にも大変弱い。最近、専門学校生に虫との関わりに関するアンケート調査を行ったところ、虫を忌み嫌う学生が過半数を超えることがわかった。小さな生き物が自分たちを生かしているとは、つゆほども思っていない。環境教育について学び、頭では大事だとわかっていても、実際の身体感覚はついて行っていないのが現状である。しかし、高校生は、関わることで多くの事を乗り越えられる可能性をもつ年代だろう。特に、幼少期に自然とのかかわりをもつ子は、関わることで感覚がすぐに戻る傾向にある。身体、特に触覚を使った実践体験が望まれる。		
	○ 改善のうえ継続 0	○思考も感性も柔軟なうちに、さまざまな体験が望まれる。特に、今の学生は身体を使っておらず、虫などの生き物にも大変弱い。最近、専門学校生に虫との関わりに関するアンケート調査を行ったところ、虫を忌み嫌う学生が過半数を超えることがわかった。小さな生き物が自分たちを生かしているとは、つゆほども思っていない。環境教育について学び、頭では大事だとわかっていても、実際の身体感覚はついて行っていないのが現状である。しかし、高校生は、関わることで多くの事を乗り越えられる可能性をもつ年代だろう。特に、幼少期に自然とのかかわりをもつ子は、関わることで感覚がすぐに戻る傾向にある。身体、特に触覚を使った実践体験が望まれる。		
事業No.		高校生後継者育成事業(高等学校課)	R3事業費	417 千円
R3-9	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続 6	【現状のまま継続】とした意見 ○林業大学校を利用した研修など、高校生のその後の進路選択にもつながるようなきっかけも合わせて提供してほしい。		
	● 事業を拡大 2	○高齢化が進む山村地域において、これからの林業を担っていく人材にとって実践的な技術の習得が難しくても基礎的な技能を身につけることによって少しでも即戦力の人材を育成していくことが大事と考える。		
	○ 事業を縮小 0	【事業を拡大】とした意見 ○法改正以前のテキストを使っているため、新しいテキストの購入の必要あり。テキストは学校で管理させ、テキストを学校同士で貸し借りしなくてもいいように各学校単位で購入して配布してほしい。 ○思考も感性も柔軟なうちに、さまざまな体験が望まれる。特に、今の学生は身体を使っておらず、虫などの生き物にも大変弱い。最近、専門学校生に虫との関わりに関するアンケート調査を行ったところ、虫を忌み嫌う学生が過半数を超えることがわかった。小さな生き物が自分たちを生かしているとは、つゆほども思っていない。環境教育について学び、頭では大事だとわかっていても、実際の身体感覚はついて行っていないのが現状である。しかし、高校生は、関わることで多くの事を乗り越えられる可能性をもつ年代だろう。特に、幼少期に自然とのかかわりをもつ子は、関わることで感覚がすぐに戻る傾向にある。身体、特に触覚を使った実践体験が望まれる。 また、林業後継者としては、視覚の熟練さも重要である。視覚にかかわる感覚統合は、幼児期の体験が大きい、「見分ける」体験を積み重ねることが重要であると考え。その意味で、知的理解力が増し、身体も急成長して、さまざまな感受性が強くなる中学生も、本事業の視野にいれるべきではないか。		
	○ 休廃止を検討 0	【改善のうえ継続】とした意見 ○当事業は林業現場への理解を促す意味でも重要な取り組みであるが、技術指導の実施場所が香美市の森林研修センターとなるため、中部以外での受講が困難である。これに対して、学校で実施したり、建設業等の協力を得て実施することでその地理的ハンデを補うような取り組みが見られる。当事業は森林研修センターでの実施を前提に設計している事業であるが、森林研修センター以外での指導における開催者負担について配慮が必要ではないか。 また、重機等以外のドローンやアウルなど、林業界に進出している新しい技術を学ぶ機会についても開催を検討してはどうか。		
● 改善のうえ継続 1	【改善のうえ継続】とした意見 ○当事業は林業現場への理解を促す意味でも重要な取り組みであるが、技術指導の実施場所が香美市の森林研修センターとなるため、中部以外での受講が困難である。これに対して、学校で実施したり、建設業等の協力を得て実施することでその地理的ハンデを補うような取り組みが見られる。当事業は森林研修センターでの実施を前提に設計している事業であるが、森林研修センター以外での指導における開催者負担について配慮が必要ではないか。 また、重機等以外のドローンやアウルなど、林業界に進出している新しい技術を学ぶ機会についても開催を検討してはどうか。			

事業No.		山の学習支援事業(林業環境政策課)	R3事業費	19,413 千円
R3-10	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	5	【現状のまま継続】とした意見 ○R2年度に作成したハンドブックの効果がかなり出てきたようである。ハンドブック作成があったことで、小中学校における地域との連携学習の動きも運動でき、新しく事業実施を予定する学校も20校と大きく増加していることは喜ばしい。他方で、報告のあった、活動を支えるボランティア団体の活動力低下(30%が休止中)は大きく懸念するところである。ボランティア活動という外部経済に強く依存しつつ施策展開している以上、ボランティア活動について、内部化するのか、外部経済のまま継続する仕組みを検討するのが急務である。内部化する場合は、経済活動としての定着を促すべく経営基盤強化の支援や教育活動のビジネス化支援を共に検討することが望ましいと考える。このまま外部経済のままとする場合も、その維持のための基盤強化に支援の目を向けることは重要である。	
	● 事業を拡大	4		
	○ 事業を縮小	0	【事業を拡大】とした意見 ○コロナによる行動制限が緩和される可能性を踏まえて、予算の増額も検討してよいのではないか。 ○小学生を中心としたフィールドワークは大切で、将来の一番の消費者である子供たちが小さな時から自然、森林、林業に親しみ身近に感じてもらうことが大切だが、コロナ禍が長引けば他のプログラムも考える必要がある。	
	○ 休廃止を検討	0	○山の一日先生の教育的効果を、その日の体験に関するアンケート調査以外で測ることが望まれる。非日常体験のほとんどは、体験して終わってしまう。それを有意義なものにするためには、その非日常的な出来事が、学びの流れに位置付いていることが重要である。その意味で、山の一日先生の授業が、指導計画にどう位置付いているのか、その位置づけに、山の一日先生の授業がどう答えるのか、といった検討が重要である。体験した身で言えば、きちんとした指導計画の元での教師の授業より、山の一日先生の授業の方が、効果があるとは思えない。	
	○ 改善のうえ継続	0	それよりも、どの事業に相当するのか分からないが、各学校、及び保育施設の戸外環境の充実を図るべきである。	
事業No.		森林環境情報誌作成等委託料(林業環境政策課)	R3事業費	7,317 千円
R3-11	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	8	○普及啓発を目的としているため、安定したアンケート回答数だけでなく、更なる読者を増やすためのデータ分析等の必要性を感じた。	
	○ 事業を拡大	0	【現状のまま継続】とした意見 ○ターゲットや発信の方法を連動させるような見直しが必要に思える。 ○いつも、とても楽しく、おもしろく拝読している。	
	○ 事業を縮小	0	【現状のまま継続/改善のうえ継続】 ○当事業は、小中学校への配布により、県内の複数世代への情報発信ツールとして定着している。この媒体を活用して、県民にどのような発信をするかがこれからの県民の森林との向き合い方を指し示すうえで、非常に重要であるといえる。近年の異常気象、そして土砂災害などを背景に、国民の森林への関心は、自身や家族、身近なものに影響を与えるものとして、不安感と共に年々高まりを見せているように思う。他方で、森林は、もしまの時の避難場所として、素材供給場所として、重要な役割を果たすため、平時的うちに、森林を活用する技術や知識を「防災」「減災」の視点を導入した森林環境・防災教育として県民に提供する方向へ展開する必要があるのではないか。県民と森林との距離を縮める機会が到来しているように思う。	
	● 改善のうえ継続	1		
事業No.		森林環境学習フェア開催委託料(林業環境政策課)	R3事業費	9,462 千円
R3-12	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	4	【事業を拡大】とした意見 ○コロナによる行動制限が緩和される可能性を踏まえて、予算の増額も検討してよいのではないか。	
	● 事業を拡大	2	○コロナ禍なので「もくもくランド」などのイベントの開催状況が不透明であるが、直に触れ、体験できる機会を増やすことにより森林、林業、環境など理解し親しみを感じてもらえるのではないかと。	
	○ 事業を縮小	0	【休廃止を検討】とした意見 ○イベント参加者のどの位の人が環境について理解したのか。理解してどう考えたのか疑問。 【改善のうえ継続】とした意見 ○コロナ禍の中、開催にこぎつけたことは今後のwithコロナ時代での開催の継続を可能とする下地となったといえる。子ども向けステージイベントについては、参加児童の年齢層とイベント内容との差が大きく、誰に向けての発信なのかを踏まえて再設定が必要ではないかと感じた。また、苗木オークションに関しては、スタート価格が低すぎて、出荷者の自尊心を守れていないのではないだろうかと感じた。無償提供とはいえ、出荷者にとって価値ある商品の提供である。二束三文からのオークションスタートは苗木そのものの価値、ひいては苗木生産業者や緑化活動そのものを軽視させるかのようであった。	
	● 休廃止を検討	1		
● 改善のうえ継続	2	○コロナ禍といえど、目標値の1/4の来場者数は少な過ぎるため、コロナ3年目となるR4年度は、目標の集客を実現できる企画と対策を検討いただきたい。		

事業No.		座談会等開催委託料(林業環境政策課)	R3事業費	62千円
R3-13	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	5	【現状のまま継続】とした意見 ○前回の運営委員会で示していただいたように、常にビジョンを頭に描くことができると、話が深まっていくのではないかと。	
	● 事業を拡大	1	【事業を拡大】とした意見 ○アンケートの実施や集計などの費用は必要。	
	○ 事業を縮小	0	【改善のうえ継続】とした意見 ○森林環境税の更新を前に座談会を開催しなかったのは今回が初めてである。森林環境税は設立時から県民の声を反映させつつ進めることを前提としてきたため、森林環境税に関わってきた方や関心のある方の声を直接聴く機会を逃した意味は大きい。すなわち、高知県としての責任が強く出てくることになる。	
	● 休廃止を検討	1	このため、今回の更新は、初回の森林環境税の立案と同様に、高知県として「新しい森林環境税」を提示することとなる。県民への明確な県政の方向提示、県民の理解を得るための丁寧な広報が必要と考える。	
	● 改善のうえ継続	1		
事業No.		こうち山の日県民参加支援事業委託料(林業環境政策課)	R3事業費	2,704千円
R3-14	集計数	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	3	○「森林整備を体験したいがどこに行ったらいいかわからない」といった問い合わせを林業女子会にもいただく。「森・ヒト・こうち応援ネット」の認知度をもう少し向上できるよう、現在のHPの維持だけでなく、SNS広告の活用など、周知に取り組んでほしい。	
	● 事業を拡大	1	○「こうち山の日県民参加支援事業」と「こうち山の日推進事業」の2つを1本化してはどうか。 【事業を拡大】とした意見 ○大変有意義な企画だと思う。	
	○ 事業を縮小	0	【改善のうえ継続】とした意見 ○多様な参加者が得られるように制度を見直す必要がありそう。	
	○ 休廃止を検討	0	○当事業はもとより、他事業においてもボランティア団体の活動に強く頼っている現状がある。例年、ボランティア団体の掘り起こしを課題としているが、掘り起こしのための対策を明確に打ち出しては来ていない。他方で、ボランティア団体の設立を促しているのは森林・山村多面的機能発揮対策支援事業で、その功績は大きい。しかしながら、ボランティア団体の活動継続は容易ではなく、事業参加のハードルが上がる中で、活動メンバーの高齢化の他、持ち出し(移動費、資材費、労働力、時間)の大きさが活動継続を断念させている事情もある。	
	● 改善のうえ継続	3	そろそろ本格的にボランティア団体の活動支援を根底から検討し直すべきではないか。県政の意を汲み、事業の支援を受けつつ、実際に汗水たらして活動し、県内に効果を発揮してくれる団体が無ければ、事業は意味をなさない。 ○新規団体の掘り起こしが課題となっているため、どのように掘り起こしていくか、団体が足りなければどのように増やしていくかなど、必要な動きを具体化させていただきたい。	
事業No.		こうち山の日推進事業費補助金(林業環境政策課)	R3事業費	7,044千円
R3-15	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	6	【現状のまま継続】とした意見 ○補助金をもっと幅広く活用できるよう、体験活動を含まない勉強会やセミナー形式のイベントにも活用できるようにするなど、検討してほしい。	
	○ 事業を拡大	0	○コロナ禍であるため、現状成果を求めることはできないが、企画している体験は、多くの県民にとっては一過性となる可能性が高いと考える。イベントも行いながら、PRを主な目的として、多くのメディアを使って「こうち山の日」を、森林環境保全の啓蒙や、成果を発表する日にするとういのではないかと。	
	● 事業を縮小	2	【事業を縮小】とした意見 ○「こうち山の日県民参加支援事業」と「こうち山の日推進事業」の2つを1本化してはどうか。	
	○ 休廃止を検討	0	【改善のうえ継続】とした意見 ○年度末の事業報告会で、コロナ対策事例の共有がなされたことは、今後の活動支援としての意義が大きかったと思われる。	
	● 改善のうえ継続	1	R3-14.15は「こうち山の日」を意識した事業であるが、「こうち山の日」の定着はその基盤にある「県民の森林との関りの強化」という本来の目的の達成のための手段である。手段に重きを置くのではなく、他事業との重複解消の視点からの整理がそろそろ必要ではないか。	
事業No.		木育指導員活動支援事業(林業環境政策課)	R3事業費	1,131千円
R3-16	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	5	【現状のまま継続/改善のうえ継続】とした意見 ○木育とは、木や木材に関する知識を提供し、木や木材に親しむ/触れる生活へと対象者を誘導し、将来の木材利用者を育成することにあるといえる。森林整備の中心に木材生産を置いている現状では、木材利用者の育成は重要である。従来の取り組みを進めるとともに、木材加工器具を保持している団体での取り組みも促進し、県民の木材活用力の育成強化を進めることも重要ではないか。	
	● 事業を拡大	2		
	● 事業を縮小	1	【事業を拡大】とした意見 ○コロナによる行動制限が緩和される可能性を踏まえて、予算の増額も検討してよいのではないかと。	
	● 休廃止を検討	1	○木育の意義を伝える活動も確かに大切だが、現在の保育所のおもちゃを見てもプラスチック製が圧倒的に多く、木製の玩具に触れる機会自体がそもそも少ないと感じる。木製玩具の現物を積極的に保育所や教育施設に提供し、木製品は長持ちすること、安全安心であることなどを体験とともに伝えていく必要があると思う。	
	● 改善のうえ継続	1	【休廃止を検討】とした意見 ○これまで述べてきたように、非日常体験として提供される指導員の活動が有効であるのか、懐疑的である。木育に特化し、きちんとした指導計画の元、塾のように定期的に学習ができるのなら、賛成である。	

事業No.		運営委員会等開催事務費(林業環境政策課)	R3事業費	236千円
R3-17	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	9	【現状のまま継続】とした意見 ○県の森林環境税の用途を決めるうえで、市町村の今後のビジョンがないと決められない部分があると思う。各市町村で森林ビジョンや譲与税の用途の方向性を決めるよう、促していく必要がある。	
	○ 事業を拡大	0	○同じ委員が何年もやるのではなく、委員長、副委員長、委員も、流動的に。多様な意見を反映すべき。	
	○ 事業を縮小	0	○各事業の評価がメインとなっているが、全体について話す時間を作っていたことが個人的には良かった。	
	○ 休廃止を検討	0	【現状のまま継続/改善のうえ継続】とした意見 ○運営委員会における県民意見の反映は、本事業において重要な位置を占めている。これまでに資料の事前送付等の改善は得られているが、如何せん議論の時間が限られている。個別事業の批評は評価シートなどで辛うじて行えているが、それらの指摘を踏まえた検討の時間は無い。また、事業全体の構成に関する議論も要望を述べるにとどまっており、意図した改善とは異なる形での意見の反映に繋がる懸念を感じている。	
	● 改善のうえ継続	1		
事業No.		林業大専科(短期課程)研修業務等委託料(森づくり推進課)	R3事業費	568千円
R3-18	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	6	○今後の環境税の用途として、少額の予算をあちこちで使うのではなく、県営施設としての林業大専科に集中的に使って磨き上げをしていくという方法もあると思う。短期課程だけでなく、学校の予算として大きく活用し、定員の増加や、教育活動の拠点として幅広く県民が活用できる機会の創出など、「高知県の森林教育といえば林業大専科」と言われるような県のシンボリックな施設になればいい。	
	● 事業を拡大	3	【現状のまま継続】とした意見 ○近年の移住ブーム、ソロキャンプなど様々な角度から山や森、自然など以前にくらべ身近に感じられ、森林、林業も身近な存在になり個人の方が作業する機会も多くなってきているため安全面を考慮した研修は大切。	
	○ 事業を縮小	0	【現状のまま継続/事業を拡大】とした意見 ○当事業は、県民の自発的な森林整備活動を支える上で非常に重要な事業である。担い手の掘り起こしとともに、希望者が受講しやすい環境の整備を意識しつつ事業を推進することを望む。	
	○ 休廃止を検討	0	【事業を拡大】とした意見 ○コロナによる行動制限が緩和される可能性を踏まえて、予算の増額も検討してよいのではないかと。	
	○ 改善のうえ継続	0	○森林環境保全にかかわる一般市民の前向きな気持ちを実質的に支える事業であり、県民の関心を具体的実践へどうつず、重要な窓口になっていると考える。	
事業No.		木の香るまちづくり推進事業補助金(木材産業振興課)	R3事業費	38,442千円
R3-19	委員による評価	見直しの具体的方策に関する意見等		
	● 現状のまま継続	4	【事業を拡大】とした意見 ○事業が順調に拡大しており、増額が検討されてよいように思う。  ○公共建築物等の木材利用促進法が制定され少しずつ木造の建築物が増えてきたが、より一層、県民の皆にも木造建築を身近に感じてもらうためにも積極的に木質化を進めていってほしい。	
	● 事業を拡大	4	○保育業界では、子どもが文化の構造を学ぶため、模倣を主とするごっこ遊びを、学びの活動として展開する。ごっこ遊びの道具の中心にあるのは、食器である。子どもは扱いが未熟であるため、陶器などを使うことができず、プラスチックであることが多い。しかし、どの施設も木の器を使いたがっているはずである。手触り、見た目が柔らかく発達に合っているからである。これは、木育の目指すところでもある。ところが、保育関係の業者が売っている木の器は、小さすぎて扱いづらい。子どもがいろんなものを「入れて使いたい」ということがわかっていない。また、子どもは実物の方が、やる気が上がる。 是非、ままごとで使う食器をはじめとして、木のベンチ、戸外用の木のテーブルなど、保育施設が必要とする備品を開発する方向を、木育の問題として検討して欲しい。	
	○ 事業を縮小	0	【事業を拡大/改善のうえ継続】とした意見 ○今後は市町村の森林環境譲与税との兼ね合いもあると思うが、市民の目に触れる市町村営の施設や庁舎などにもっと積極的に木材が使われるように、資金的な支援のみならず木造の優位性を伝える普及啓発、設計や発注についてのノウハウ提供などを行ってほしい。	
	○ 休廃止を検討	0	また、県営住宅や市営住宅等も老朽化が進んでいるが、今後の改修や建て替えの際には木造化や内装の木質化を行い、木材は高価なもの・贅沢品ではなく、身近で心身にやさしい素材として、誰もが恩恵を受けられるものという認識を広げてほしい。	
	● 改善のうえ継続	2	【改善のうえ継続】とした意見 ○当事業による木質設備の設置数も多くなってきており、その経年劣化に関しても配慮するべき時期に入っている。当事業は、木材利用の推進だけが目的ではなく、県内各所への木材利用の機会を提供し、それにより木材の良さに触れる機会を県民に提供することで、木材利用の文化を定着させることにある。つまり、「木材の良さ」を感じてもらうことが重要であり、木材の良さを損なう「木材の経年劣化」への対応方法もまた定着すべき知識・技術である。加えて、環境問題への対応として、「長く使う」「段階的に無駄なく使う」ということへの配慮も必要であり、そういった活動を支える仕組みも導入する必要があるのではないかと。	